

【9-A】水南連区 社会条件

【連区の概要】

水南連区は瀬戸市の西部に位置している。連区内の多くは住宅地であるが、北側にまとまった樹林地が残されている。主要道路としては、中央部を南北に国道155号が通過している。また、鉄道は、愛知環状鉄道が南北に、名鉄瀬戸線が東西に、それぞれ通過し、交差する愛知環状鉄道の瀬戸市駅・名鉄の新瀬戸駅は瀬戸市の玄関口となっており、商業施設や病院などの集積がみられる。

水南連区



【人口および世帯数】

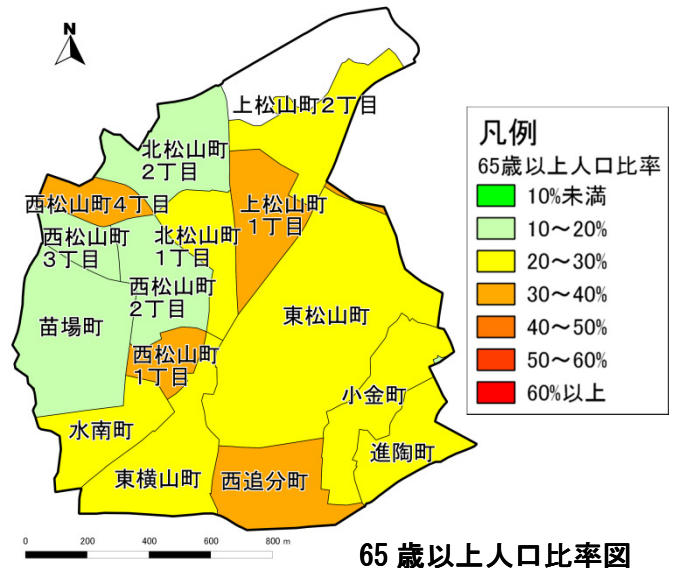
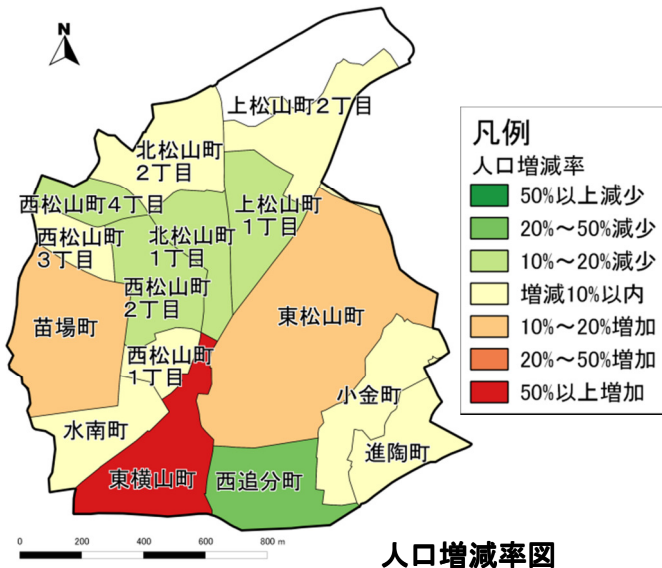
平成12年から平成22年までの10年間で、水南連区全体の人口は10,812人から11,027人と2.0%増加し、東横山町、東松山町および苗場町では人口が増加傾向であるものの、西追分町、上松山町1丁目、北松山町1丁目、西松山町2丁目および4丁目などで減少傾向であったため、連区全体では微増であった。また世帯数は3,820世帯から4,133世帯と8.2%増加している。

水南連区全体の65歳以上人口比率が19.7%と、瀬戸市全体の23.3%と比べて3.6%低い。上松山町1丁目、西松山町1丁目・4丁目、西追分町など、65歳以上人口比率が比較的高い地域がある。

階層別人口構成

年代	人口	構成比
0～14歳	1,649人	15.0%
15～64歳	7,165人	65.2%
65歳以上	2,168人	19.7%
区分不明	45人	-
連区内人口	11,027人	

※平成22年国勢調査結果より



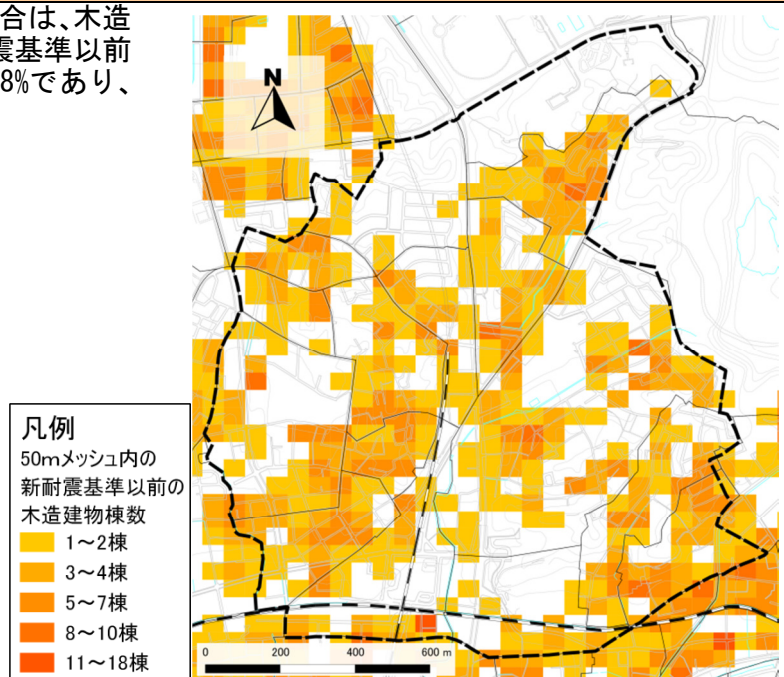
【建物】

水南連区の木造建物および非木造建物の割合は、木造建物69.3%、非木造建物30.7%である。新耐震基準以前（昭和55年以前）の木造建物は全建物の32.8%であり、瀬戸市全体の34.3%に比べて若干低い。

木造・非木造構成

	建築年	棟数	構成比
木造	S35年以前	342棟	10.9%
	S36～55年	689棟	21.9%
	S56年以降	1,147棟	36.5%
	計	2,178棟	69.3%
非木造	S45年以前	217棟	6.9%
	S46～55年	225棟	7.2%
	S56年以降	523棟	16.6%
	計	965棟	30.7%
	連区内棟数	3,143棟	100.0%

※平成23年度都市計画基礎調査
建物利用現況図をもとに集計



【9-B】水南連区 水害および土砂災害

- 連区北部に土砂災害特別警戒区域および土砂災害警戒区域が存在する。
- 連区北部に風水害時の避難所までの距離が離れている地域が存在する。

【水害および土砂災害箇所】

水南連区では、浸水想定区域は設定されておらず、近年大規模な水害は発生していない。

上松山町1丁目・2丁目には土砂災害特別警戒区域（急傾斜地の崩壊）および土砂災害警戒区域（急傾斜地の崩壊）が指定されている箇所があるほか、愛知環状鉄道よりも東側の連区内では急傾斜地崩壊危険箇所が散在している。

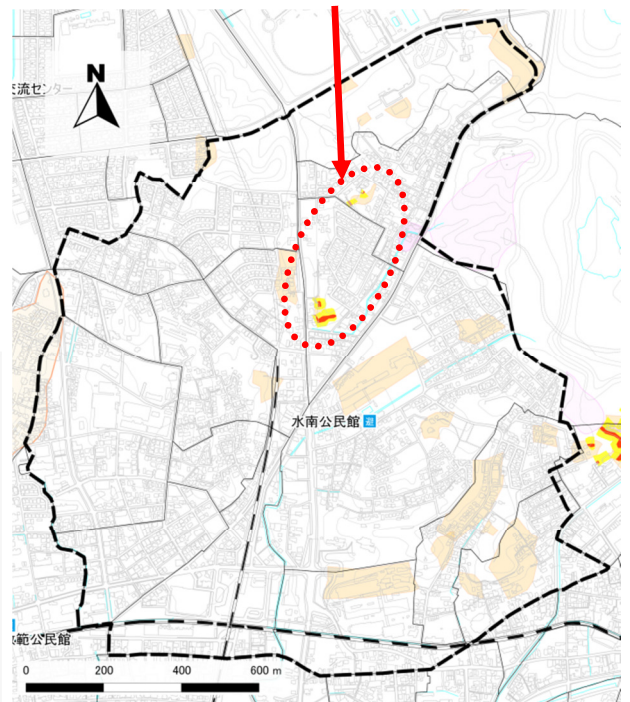
土砂災害警戒区域内にある建物棟数

急傾斜地の崩壊	4棟
特別警戒区域	4棟
警戒区域	0棟

凡例

- 風水害避難所
- 土砂災害情報
 - 急傾斜地の崩壊（特別警戒区域）
 - 土石流（特別警戒区域）
 - 急傾斜地の崩壊（警戒区域）
 - 土石流（警戒区域）
 - 土石流危険渓流
 - 土石流危険渓流による危険区域
 - 急傾斜地崩壊危険箇所
 - 地すべり危険箇所
 - 既往水害(東海豪雨)

上松山町1丁目・2丁目では土砂災害特別警戒区域（急傾斜地の崩壊）および土砂災害警戒区域（急傾斜地の崩壊）が存在する。



水害・土砂災害危険度図

【風水害時の避難所および緊急避難場所】

水南連区では水南公民館が風水害時の避難所・緊急避難場所として指定されている。

近隣連区の避難所も含めると、上松山町2丁目の一部にて、避難所までの距離が700m以上離れている地域が存在する。風水害時の避難所への近接性が良くないことを周知するとともに、早めの避難を促すなど、避難体制を整える必要がある。

風水害時の避難所・緊急避難場所一覧

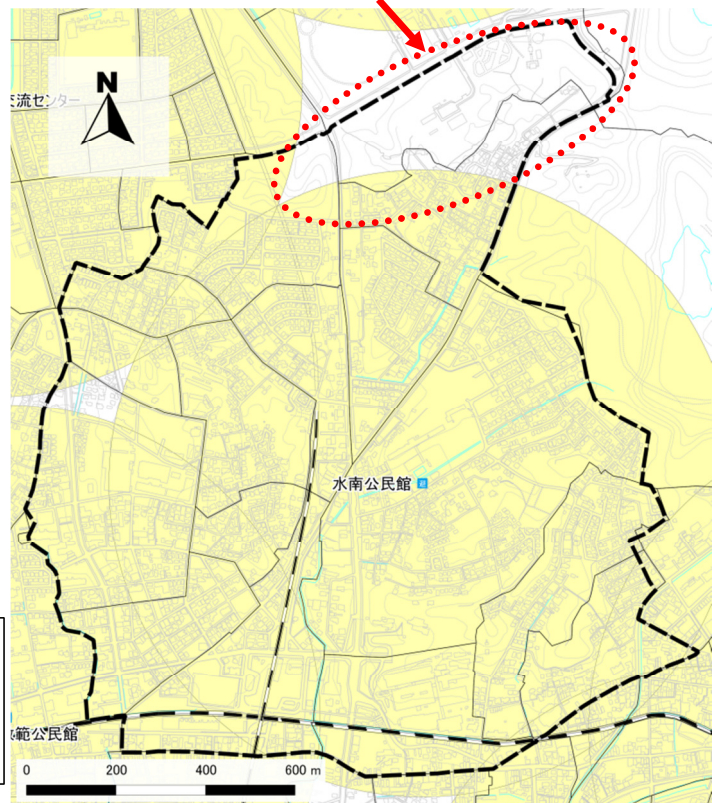
緊急避難場所・避難所	収容定員(目安)		
	長期	初期	直後
水南公民館	40人	75人	125人
效範公民館【效範連区】	80人	160人	265人
水野公民館【水野連区】	75人	150人	245人
西陵地域交流センター【西陵連区】	95人	190人	305人

※地域防災計画より

凡例

- 避難所・緊急避難場所(風水害)
- 緊急避難場所兼避難所
- 避難所等からの対象範囲(同心円)
- 避難所から700mの範囲

上松山町2丁目にて避難所まで700m以上離れている地域が存在する。



風水害時の避難所・緊急避難場所の対象範囲図

【9-C】水南連区 地震災害

- 連区中央部に液状化の可能性が高い地域が存在する。
- 連区のほぼ全域にて近隣に地震時の避難所が存在するが、幅員が狭く傾斜が大きい道路が多く、円滑な避難が困難となる可能性がある。

【建物被害および液状化】

(1) 建物被害について

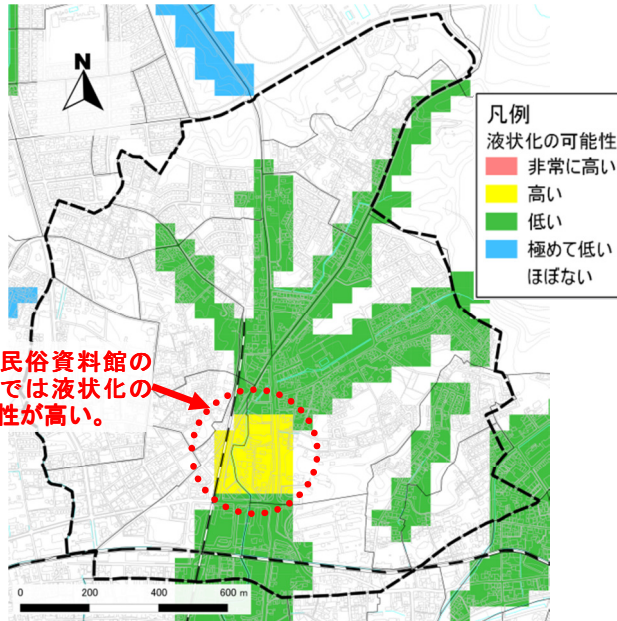
水南連区は全域にて、耐震性の低い建物が倒壊する危険性がある。倒壊の割合がやや高い地域は、連区の南部に点在している。

(2) 液状化について

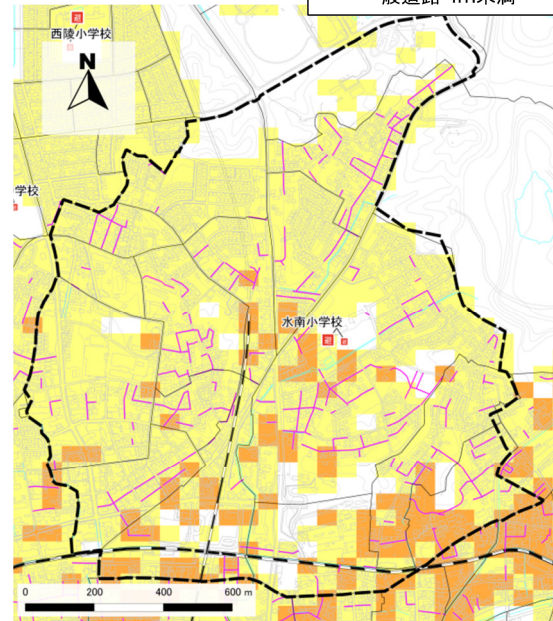
液状化の可能性のある地域は、主に孫田川とその支流によって形成された沖積低地（谷底平野）に分布している。このうち、歴史民俗資料館の西側では液状化の可能性が高い。

凡例

- 耐震性の低い建物が倒壊する割合
- 高い
 - やや高い
 - 低い
 - ほぼない
- 道路情報
- 一般道路 4m未満



液状化危険度図



建物(木造および非木造)倒壊危険度図

【地震時の避難所および緊急避難場所】

水南連区では、地震時の避難所および緊急避難場所として水南小学校が指定されている。近隣連区の避難所なども含めて、連区のほぼ全域において、700m以内に避難所もしくは緊急避難場所が存在する。

水南小学校の周辺は幅員が狭く、傾斜が急な道路が多いため、円滑な避難が困難となる可能性がある。

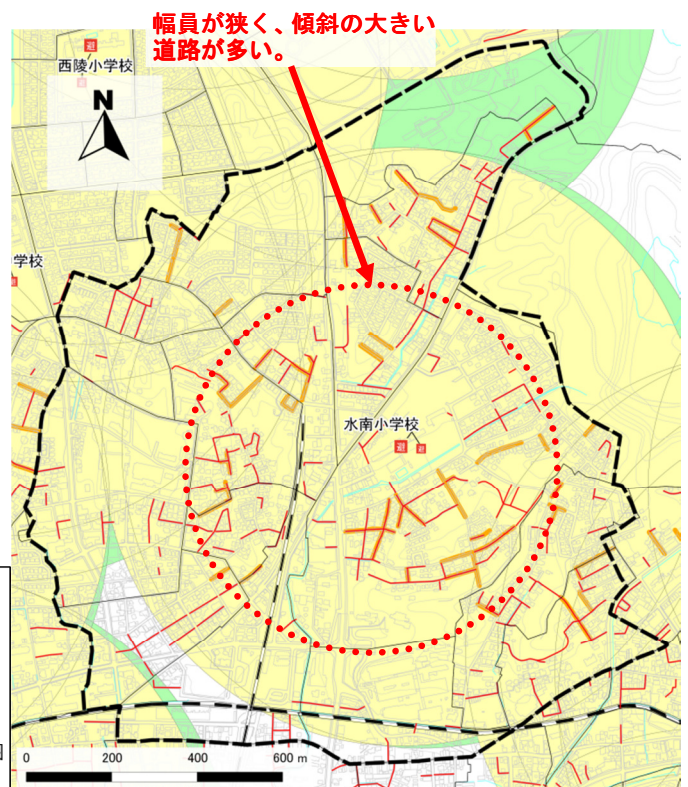
地震時の避難所・緊急避難場所一覧

緊急避難場所	避難所	収容定員(目安)		
		長期	初期	直後
水南小学校(運動場)	水南小学校	95人	190人	305人
效範小学校(運動場) 【效範連区】	效範小学校 【效範連区】	95人	195人	315人
南山中学校(運動場) 【西陵連区】	南山中学校 【西陵連区】	280人	565人	915人
本山中学校(運動場) 【道泉連区】	本山中学校 【道泉連区】	265人	535人	870人

※地域防災計画より

凡例

- 避難所・緊急避難場所(地震)
- 避難所
 - 緊急避難場所
- 避難所等からの対象範囲(同心円)
- 避難所から700mの範囲
 - 緊急避難場所から700mの範囲
- 道路情報
- 道路傾斜 10度以上
 - 道路幅員 4m未満



地震時の避難所・緊急避難場所の対象範囲図